

# みんなの白岡遺産

3号



## 「小久喜さら獅子舞の伝統と獅子舞を支える気風」を新しい白岡遺産に認定しました！

令和7年6月1日(日)中央公民館で開催した令和7年度白岡遺産保存活用市民会議定期総会において、「小久喜さら獅子舞の伝統と獅子舞を支える気風」を新しい白岡遺産に認定しました。

小久喜の獅子舞は、文政11年(1828)に伝来したといわれ、獅子舞を大切に思う地域の人々の心が1つとなり、地域に根差した伝統芸能として長く継承されています。獅子舞は3頭立てのもので、舞とともに関連するしきたりや古文書などが残されています。地元の南小学校郷土研究クラブでは、昭和61年から子供たちによる獅子舞の継承活動が続けられています。

白岡遺産に新たなストーリーが加わったことは喜ばしいことです。

新たな白岡遺産のストーリー

小久喜の獅子舞は、小久喜久伊豆神社に伝わる古文書「獅子連中例記」によると文政 11 年(1828)に深作村（現さいたま市見沼区深作）から伝来したとされています。

獅子舞は大獅子、中獅子、女獅子の3頭の獅子と笛吹き、ささら摺り、天狗、歌方などで構成され、悪霊退散や雨乞い、五穀豊穡など民衆の素朴な祈願を込めて奉納されてきました。



雨乞い感謝の木札

昭和 61 年から始まった地元の南小学校郷土研究クラブの子供たちによる獅子舞の継承活動が令和になった現在でも続けられており、地域に根差した伝統芸能として長く継承されています。



南小学校郷土研究クラブの奉納

獅子舞は、モノとしての獅子頭や装束だけでなく、舞を伝承する人にも、三人一組で舞う「舞い方」や「笛吹き」「ささら摺り」などそれぞれの役割ごとに細かく約束があったり、相互の呼吸を合わせたりしながら一つの芸能として出来上がる仕組みですので、どれかが欠けても成立しません。

また、もともと神前への奉納を目的とするため、獅子舞の演目はもちろん、「ブク」といって身内の

服喪中の人があると奉納できないなどの禁忌事項があるほか、稽古初めから奉納後の「ナオライ」にいたるまで様々なしきたりがあります。残されてきた記録類、伝承なども重要な意味を持っています。

一方、獅子舞を見る側にも様々な祈りや願いがあり、獅子連中への差し入れや賄いをしたり、家族はもちろん親戚にも声を掛け御馳走を作って振る舞ったりして喜び感謝する気風が育まれてきました。



道化役としての天狗

小久喜のささら獅子舞は、舞方だけでなく、獅子舞を大切に思う地域の人々の心が一つになって守られてきた歴史文化だといえます。時代とともに、薄れてきている部分はありますが、これからも地域の伝統文化を地域の手で守り続ける模範として末長く大切にすべきものだといえます。

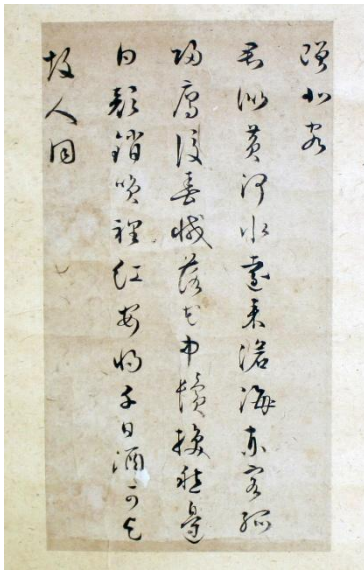


小久喜の獅子舞 隠居獅子頭

本ストーリーの関連文化財は、「小久喜の獅子舞」や「小久喜の獅子舞 隠居獅子頭」という市指定文化財はもちろん、笛の曲目や舞い方、「シバ」や天幕といった獅子舞の奉納を構成する要素や雨乞いの伝承に関する資料、さらには、ささらに合わせて各家々で作ったと伝えられる小麦まんじゅうなども含まれています。

野牛地区文化財一般公開

令和7年は、野牛村領主であった新井白石公の没後300年の節目にあたります。これを記念して、郷土ゆかりの偉人である白石公の業績を顕彰する事業の一環として、令和7年10月4日(土)に野牛地区の観福寺において、市指定文化財の一般公開を行いました。本事業は、観福寺、白岡市教育委員会、市民会議の共催により実施したものです。



新井白石自詠詩  
「贈北客」

今回公開したのは、紙本着色新井白石画像・新井白石自詠詩「贈北客」付附鳳、成美自詠詩・新井白石奉納扁額付朝鮮通信使李磻筆下書の3点です。いずれも白岡市指定文化財であり、野牛村の領主であった白石公と地域との深い関わりを今に伝える、貴重な資料です。

当日は、市文化財保護審議会の板垣時夫会長から、白石公と野牛村との関係や、公開した文化財の特徴について、詳しい解説をいただきました。解説の後には自由見学の時間が設けられ、参加者は普段公開されていない実物の文化財を間近で見学しました。参加



新井白石奉納扁額



野牛地区文化財一般公開の様子

者は説明に熱心に耳を傾けながら、興味深そうに資料を鑑賞していました。

令和7年度事業のまとめ

- ◇6月1日(日) 定期総会及び公開講演会  
於：中央公民館  
出席者 39名 (書面出席を含む)
  - ・令和6年度事業報告及び収支決算の認定
  - ・令和7年度事業計画及び収支予算の承認
  - ・役員を選任
  - ・白岡遺産の承認
  - ・講演会「白岡市の古文書  
—指定文化財を中心に—」  
講師：林貴史氏 (市文化財保護審議会委員)
- ◇7月21日(月・祝)・8月17日(日)・9月21日(日)・10月19日(日) 白岡遺産の作り方講座  
参加者のべ21名 於：中央公民館
- ◇10月4日(土) 野牛地区文化財一般公開  
参加者 39名 於：観福寺(野牛)
  - ・解説 板垣時夫氏 (市文化財保護審議会会長)
- ◇1月27日(火) 文化財防火訓練参加・協力  
参加者 32名 於：旧大山尋常高等小学校校舎 (荒井新田)
  - ・訓練内容 通報、初期消火、文化財搬出、放水
  - ・指導 埼玉県東部消防組合、  
白岡市消防団第6分団
- ◇3月31日(火) 白岡遺産保存活用市民会議広報紙『みんなの白岡遺産』3号発行 300部
  - ・A4判4ページカラー印刷
  - 白岡遺産セルフガイドブック2発行 2,000部
  - ・A5判カラー印刷

地域文化財愛護活動の紹介

大山地区における活動

明治から令和にかけて 136 年の歴史のなかで、多くの卒業生を送り出してきた大山小学校が令和 6 年度をもって閉校しました。地域の学校の閉校は、地域の方々にとって残念なことでしたが、令和 7 年 3 月 24 日 8 名の最後の卒業生を送り出し惜しまれつつも、その役目を終えました。

3 月 30 日の閉校イベントは、たくさんのスタッフや地域の方達の協力を得て盛大に開催されました。子供たちの校歌演奏から始まり、落語やカラオケ大会などで体育館は大いに盛り上がりました。図工室では「大山小の歴史コーナー」が設けられ、卒業生から寄せられた文集や卒業アルバムなどを懐かしそうに手にとって眺めている人でいっぱいでした。

各教室では、時代ごとの掲示がなされ、ビデオも流れていて自分たちの活動の様子も偶然目にする事ができたと興奮気味の卒業生にも出会いました。感動と興奮の一日も、打ち上げ花火でピリオドを打ちました。参加者たちにとって忘れがたい大切なひとときとなったようです。

長い歴史に幕を閉じたとはいえ、江戸時代の寺子屋から始まった地域の教育の歴史を大切に保存していこうという声があがり、白岡遺産の作り方講座の中で話し合いを進めています。今後は、地域とともに歩んできた大山小学校の歴史を記録し、忘れかけていた歴史にも光をあて、これからの大山地区に暮らす人や巣立っていく人たちの絆となり拠り所となるような文化遺産としてまとめていこうと計画されています。

小久喜ささら獅子舞保存会

会長 山口 明宏

文化財 小久喜の獅子舞（市指定）

小久喜の獅子舞 隠居獅子頭（市指定）

小久喜久伊豆神社（白岡市小久喜 2）で奉納

未指定文化財紹介

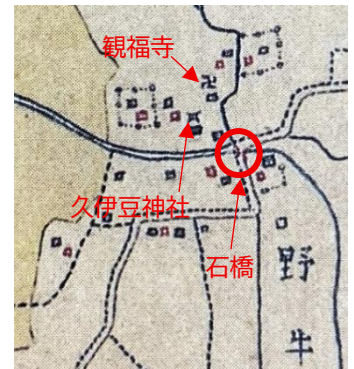
野牛の新井白石郷倉跡に文政 4 年（1821）銘を持つ石橋供養塔が 1 基あります。移設の経緯も石橋がどこにあったのかも既に分かりません。しかし、野牛高岩土地区画整理事業の工事で石橋の部材と思われる 9 本の石材が発見されたのです。



長さ 180 cm 余り、幅 30 cm から 40 cm ほどです。現在は、白石様堀公園入口の敷石となっています。

石材の長さが水路幅を、9 本横に並べた幅が道幅を示すとすると、その幅は 320 cm 内外、当時としては破格の道幅です。荷車の車幅は 2 尺、70 cm 弱でしたから、2 組すれ違える道幅です。

石橋が架かっていた道と場所を明治 16 年に測量された地図から推測すると、おそらく、観福寺の南側付近ではなかったかと考えられます。そんな推理も文化財の楽しみ方のひとつでしょう。



✿✿ 編集後記 ✿✿

今年度は「小久喜ささら獅子舞の伝統と獅子舞を支える気風」を新しい白岡遺産に認定したほか、野牛地区文化財一般公開などとおして、市内の文化財への理解を深めることができました。今後の活動は SNS を活用して発信できるように進めていきたいと思ひます。広報部会 大橋 忠夫、興野 明夫、大野 雄大、近藤 勝夫、進藤 美千代

真言宗智山派 大悲山與楽院 観福寺

住職 布施 浄明

本尊 十一面観自在菩薩

文化財 紙本着色新井白石画像（市指定）

明和 3 年銘宝篋印塔 ほか

白岡市野牛 656 ☎0480(92)5686